



豊田市立藤岡南中学校 校長だより

【地域と学校の共催行事】 第11回藤岡南ふれあいフェスティバル 「咲き誇れ 地域のつながり 六桜」



桜の木陰

令和四年十一月一日 ふれあいフェスティバル特集号

秋も深まり、すっかり日足が短くなつてまいりました。保護者、地域の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。曰うのは、藤岡南中学校の教育活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、十月二十三日（日）に藤岡南ふれあいフェスティバルを行うことができました。本校の取組の特徴は、生徒が地域の皆さんを巻き込んだ活動を展開することにあります。そのため、どの学年も日々の学習を生かしながら、大人から子どもまで楽しんでいただけるようにイベントを計画しました。

一年生は、SDGs の学習を生かして展示発表、ECO 縁日、3R クイズを企画しました。また、自治区等のブースでボランティア活動を行いました。鮮やかな桜色の帽子をかぶつた中学生の活動をご覧いただけたことと思います。

二年生は四七災害の学習を生かして、体験ブースを企画しました。災害体験をボードゲームにしたり、応急手当を迷路の中で学んだり、

消防器訓練を的当て風にしたりと園児でも楽しめる企画でした。また、暗闇の煙道体験や災害時の高齢者体験は大人でも立派な学びとなつたのではないでしようか。

三年生は、地域貢献を意識しながら、中学校会場全体の盛り上げ役を担いました。ウツド・デツキの縁日では多くの園児や小学生が楽しそうな姿がみられ、中庭のイベントでは、有志発表、パフォーマンス、ミニコンサートなど次々と魅力的な演目が披露されました。また、地域のお店とのコラボ商品は大人気で、わずか数分で売り切れになるものもありました。

特別支援学級のお店には、手作りの美しいペーパークラフトが並べられていました。特にローゼル茶は大人気でこちらも売り切れてしまふほどでした。

当日、印象的であつたのは生徒が来場者に一生懸命にはたらきかける姿でした。広く地域の皆さんを意識することで、生徒の主体性や社会性が伸長していると感じています。このような機会を与えてくださったフェスティバル実行委員会の皆様、関係の皆様に心より感謝申し上げます。

「思いを形に」

三年一組

色とりどりのケーキが並ぶショーケース。香ばしい香り。藤岡南に住む人なら一度は訪れたことがあるであろう松華堂。昨年度の先輩方がそんな松華堂とコラボしているのを見て、今年は自分も関わりたいと考えていました。

どんなカップケーキを創るか。仲間と話しあった結論は、藤岡を盛り上げ、そこに住むすべての人良さを再認識してもらうということでした。そこでこだわったのは、原材料の仕入れ先。使ったほうじ茶とさつまいもは、藤岡南地区でとれたものを使用しました。またアーレルギーを配慮し、豊田産の米粉で作ってもらえるよう、提案しました。今回僕たちの思いに耳を傾け、形にしてくれた松華堂さんには感謝しかありません。これからも地元から愛される存在でいてほしいです。



「今度は僕が」

三年一組

この地区に伝統文化なんてあるのだろうか。僕から見たら、新し

い中学校。この土地に歴史や伝統があるとは思えませんでした。そ

んな中「ミナミのミワイを語る会」(総合)で訪れた棒の手会館。そこに勤める■さんから「このま

まではほら貝の扱い手がいなくなってしまう」という困り感を伺いました。戸惑いはありながらも一からほら貝の製作を続け、完成する頃には自分もその文化を受け継ぐ扱い手となっている自覚をもつていました。

そして迎えたフェスティバル当日。数回の練習で誰かに何かを伝えられるほど立派な音を鳴らしたとは思っていません。それでは地域の文化を理解しきつたとも思っています。それでも僕はその発信者として舞台に音を響かせることができたと思っています。



めました。初めは、放課だから友達と話している方が楽しいと思つていました。しかし、歌詞を覚えていたのはどうするか、他のパートにつられないようにするには何を意識するのかなど、練習すればするほど自分への課題が見つかりました。その課題を乗り越えるために練習を重ねました。

本番ではこれまでの練習を思い出しながら歌うことで楽しく演奏を終えることができました。今回の経験から、自分の中で苦手だと壁を作ってしまう物事に対して、それを楽しくするために自分から行動したり、意識を変えたりすることが大切だと学びました。



「見える人と見えない人」

三年二組

今年のふれあいフェスティバルは昨年とは全く違つたものでした。今までに無いほどお客様があふれ、各学年の趣向を凝らした出し物が、さらに藤岡南中学校を盛り上げていました。

毎日、朝早く登校して準備をし

た人や、当日に裏方で支えてくれた人もいました。何より、当日に来てくれたお客様がいてくれたからこそ、この藤岡地区ふれあいフェスティバルを華やかに終え

ることができたと思います。り、楽しそうに笑つていたりするだけで、こんなに素敵な一日にすることができるのだと感じました。来年は一人一人が様々な場所で輝くふれあいフェスティバルをこの目で確かめに来るのが楽しみです。

「できる限りのこと」

三年三組

自分自身への挑戦でした。独りよがりで、周りに頼ることもしなかつたあの時の自分を変えたいと思い、中学校生活最後の行事の実行委員に立候補しました。中庭を使つた有志発表、学級ごとのアトラクション、地域のお店とのコラボ商品の販売という多岐にわたる内容をとりまとめ、中学校会場を形にすることは簡単ではありませんでした。でも会場装飾や、口ゴの募集、「さつくん」の耳の制作な



どたくさんの中間に支えられ、なんとかフェスを形にすることができました。

迎えた当日、中庭の司会を担当しましたが、はじめはお客様が少なくて不安でした。でも増えていくにつれて、会場のボルテージが上がつていくのを感じました。思い描いた通りの出来栄えではなかつたかもしれません、たくさんのお客さんの笑顔を見ることができて嬉しさを感じました。

ましたが、はじめはお客様が少なくて不安でした。でも増えていくにつれて、会場のボルテージが上がり、いくのを感じました。思い描いた通りの出来栄えではなかつたかもしれません、たくさんのお客さんの笑顔を見ることができて嬉しさを感じました。



ほどでした。

そんなかかわりか

ら、ふれあいフェス

ティバルで桜の舞を

踊ることになりました。

全力で踊つてい

た園児たちが見てい

るかと思うと自然と

力がみなぎるのを感

じました。

桜の舞を

教え、一緒に踊つた

ことで、伝統が受け

継がれていくことができ

実感することができ

ました。

た。全力で踊つていた園児たちが見ていました。桜の舞を踊ることになりました。桜の舞を踊ることこれが成功の鍵となることが改められてわかつたふれあいフェスティバルとなりました。



ました。

迎えた当日、接客をしていく中で困ったこともありました。仲間と協力し、来てくれた人たちに楽しんでもらえる

ブースになりました。

で、仲間と協力し、来てくれた人たちに楽しんでもらえる

手を取り合いながら同じ目標に向かうことができたふれあいフェスティバルとなりました。

学校生活も今回築いた絆をもとに同じ目標に向かつて生活していきたい

です。

ました。

学校生活も今回築いた絆をもとに同じ目標に向かつて生活していきたい

です。

ました。

識して取り組みました。

当曰は、私たちの作った大切な商品やお客さんからのお金を両手で受け渡しすることを一生懸命頑張りました。ふれあいフェスティバルは楽しかつたです。

「協力」

二年二組

僕はこのふれあいフェスティバルを通して協力することの大切さを学びました。

僕のグループでは消火器体験を企画しました。消火器を自分が使ったとき、とても面白くて、実際に体験しに来た人たちにも同じ思いを味わつて欲しいと考えました。そこで、ただ水消火器を使うだけでなく楽しく使い方を知つてもらおうと思い、みんなで意見を出し合いました。

水消火器を使った的をやることが決定し、作り始めました。製作は大変で本番までに間に合うか不安でしたがみんなで協力して何とか完成しました。当日、たくさんの人々が楽しむ姿がありました。それを見て僕は達成感を感じました。



また次、このような機会があつたら自分のいいところを出しながら協力してひとつものを作り上げていきたいと思います。

「楽しく学ぶ」

二年二組

私は、このふれあいフェスティバルを通してみんなで作り上げる楽しさを学びました。

私は来場者に四七災害時の大雨体験をしてもらう班に入りました。どうしたら当時の大雨を体験してもらうことができるか考えました。「段ボールで家を作る」「霧吹きで水をかける」など、いろいろな案が出ましたがなかなか案がまとまりませんでした。何度も話し合い、実際の大雨に近い体験ができるものを考えることができました。

当日、お客様が来ないのではないかと不安でした。でも実際に子に「二回目をやりたい」と言われた時には嬉しかつたです。来年も同じように楽しんでもらえるふれあいフェスティバルにしたいと思いまして。今後の行事も頑張ります。



「不安から喜びへ」

二年三組

僕は、今回のふれあいフェスティバルが不安でした。昨年はボランティアでしたが、今年は自分の手で一からブースを創らないといけなかつたり、短時間でお客様に内容を伝えないといけなかつたりしたからです。

迷路づくりでも迷いました。迷路を二つにする

ことで、効率を上げてお客様に体験してもらうおもとが、経路が短すぎ面白くなく、急遽一つの迷路に変更しました。



当日は、オープントークと同時にお客様が来てくれました。また、小さい子から大人までよく話を聞いてくれて、緊急時にどうしたらいいのかを伝えられたこともうれしかつたです。このフェスティバルで地域の人とふれあうことができよかったです。

「人のためを想う」

二年三組

私はふれあいフェスティバルを通して、将来について少し考えま

した。

私は受付の係でしたが、想定の何倍もお客様に来ていただき、急遽、説明の係にまわりました。準備日数もギリギリで、正直不安しかありませんでした。でも当日、イバルが不安でした。昨年はボランティアでしたが、今年は自分の手で一からブースを創らなければなりません。親御さん、友だち同士といけなかつたり、短時間でお客様に内容を伝えないといけなかつたりしたからです。

小さい子、親御さん、友だち同士の楽しそうな声や笑顔は、これまでの準備の大変さをくつがえすものでした。私たちの説明に元気になれる姿を見て、人のために頑張る反応してくれたり、カードや賞状を嬉しそうに受け取つたりしてくれました。顔も年齢も分からぬ者同士が、こうしてつながつて笑顔で会話できる。こんな経験は中々ないと思いました。



初めてクラスで作るブースは、とても不安でした。しかし、内容を考えていくと「楽しみだ」と思えるようになりました。煙道体験

「感情」

二年四組

私はふれあいフェスティバルを通して、将来について少し考えました。今後の行事も頑張ります。

と高齢者・車いすの体験ブースに決まり、僕は、煙道体験の担当になりました。

なかなかみんなで協力できなかつたり、材料の段ボールが足りなくなつたりする問題もありました。でも、最後にはみんなで一生懸命にコースを完成させ、「これなら成功しそうだ」と思えました。当日は「どれくらいの人が来てくれるのか」という不安と期待がありました。前半の担当者との引き継ぎに行くと、「すごくたくさんお客様さんが来たよ」と喜んでいました。結局、後半も併せて三百六十人ものお客様が来てくれました。このクラスの級長になつてよかったです。

「感謝の言葉」

私はふれあいフェスティバルを通して感謝される嬉しさを改めて知りました。私が看板をもつて、一階に行き、集客の声掛けをしていると小さい子から年配の方まで、高齢者体験をやりたいと言つてくれました。とてもたくさんの人があ





来てくれて嬉しさでいっぱいでした。ブースに案内すると多くの人が「ありがとうございます」と言ってくれて、とても温かい気持ちになりました。

私はフェスティバルが始まる前までずっと不安でした。でも感謝の言葉一つで嬉しくなり、もつと頑張ろうと思いました。今後、この思いを忘れずにいろいろ人に感謝の気持ちを伝えていきたいと思います。そして、来年も地域との交流を大切にしてふれあいフェスティバルに臨んでいきたいです。

「人と関わる大事さ」
一年一組

私は、ふれあいフェスティバルで感じたことが二つあります。

一つ目は、物品を買いに来てくださった地域の人たちやボランティアの方々と交流ができたことです。私が販売の受付をしているときに、おじいさんが話しかけてくれました。少しの会話でしたが、普段では交流ができない地域の人たちと会話を通して交流できたこ



とを嬉しく思いました。

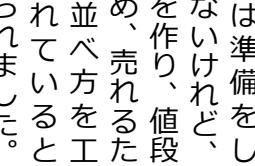
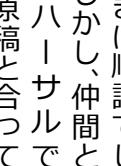
二つ目は、販売に至るまでの準備の大変さです。今回は準備をしていいけれど、品物を作り、値段を決め、売れるために並べ方を工夫されていると感じられました。

また、どんな時も笑顔で接客されおり、それにつられてお客様も笑顔になっている姿を見て、私も笑顔で接客をして販売をすることができました。

「あきらめない心」

一年一組

「よし。頑張るぞ」この思いを胸にふれあいフェスティバル当日が始まりました。ここまでには様々な苦労がありました。夏休みが明け、僕はSDGsに関する発表をする係になりました。最初にパワーポイントで内容を作成しているときは順調でした。しかし、仲間とのリハーサルでは、「原稿と合っていない」と指摘されました。それから、ペアの





君と何度も練習を繰り返し、日々には今までで一番の発表をすることができました。その努力もあって、お客様から拍手をもらったり、うなずいてくれたりもしました。本番で成功できたのは、今まで何度も練習してきたからだと思います。ふれあいフェスティバルを通して知ったあきらめない心を大切にしたいです。

「感動と笑顔のフェスティバル」
一年二組

当日、ぼくはとても緊張していました。なぜなら、ぼくは西中山区民会館で野菜販売をする担当たつたからです。販売では大きな声を出さなければいけません。僕は大きな声を出すのが苦手でした。

区民会館に行き、野菜販売の方に「よろしくお願ひします」と言うと、その方もとても明るい声で「よろしく」と返してくれました。そして、いざ開店すると四十分ほどで、ほぼ売り切れてしましました。販売では、様々な方がたちが「頑張れ」と言つてくれました。そのおかげで少しづつ



緊張もなくなり、元気で大きな声が出るようになりました。

このフェスティバルで分かったことがあります。それは、明るく大きな声で話すと、自分も相手も元気が出ることです。このことを活かして、これからも過ごていきたいです。

「勇気を出すことは」

一年二組

私はふれあいフェスティバル当日とても緊張しました。なぜなら工口縁日でお客さんを楽しませられるか、声を出して人を呼び込めるとが心配だったからです。中庭の三年生や体育館の二年生、また同じ一年生も一生懸命に呼び込んでいたのに、私は恥ずかしさが勝ち、あまり呼び込みができませんでした。沢山呼び込みをしている所へは人がどんどん来していくと悔しかったです。

勇気を振り絞つて呼び込みをしてみたら、木工室にもお客様が来てくれて、「やつたあ」と思いました。担当したクイズに来てくれたお客さんは、楽しそう



に答えてくれたし、たくさんふれえたので良かったです。

フェスティバルを終えて、勇気を出すとその先に良い事があることが分かりました。この経験を生かして過ごしていきたいです。

「改めて気づいた大切なこと」

一年三組

私は、ふれあいフェスティバルを通して「あいさつ」はとても大事だということを改めて学びました。



私は、これからも「あいさつ」を続けて人とのかかわりを大切にしたい 것입니다。

「聞き手の反応」

一年三組

私は、工口縁日の中の釣りのブースを担当しました。予想以上にお客さんが来て、何を話せばいいのか分からなくなりました。その時、思いついたのは「あいさつ」でした。「あいさつ」をすれば、お客様も返しやすいし、私も自然と笑顔になれました。「あいさつ」をした後は会話も弾んで私は楽しい気持ちになりました。

三年生や体育館の二年生、また同じ一年生も一生懸命に呼び込んでいたのに、私は恥ずかしさが勝ち、あまり呼び込みができませんでした。沢山呼び込みをしている所へは人がどんどん来していくと悔しかったです。



「少し関心がある」「話だけでも聞いてみようかな」と言う方は、是非！ご入力ください。後ほど学校から説明のお電話を差し上げます。

相談フォーム



このフォームは指導者になることを約束するものではありません。実際に説明を受け、面談や部活動見学をしてから、指導するかどうかを決めています。

地域部活動 指導者募集

対象の部活動

野球部

ハンドボール部

卓球部

ソフトテニス部

弓道部

バスケットボール部

吹奏楽部

バレー部

活動日

週一日三時間（土・日・祝日）

主な条件

- ・対象部活動に関する教育活動にかかる技術的な指導に従事できる者
- ・豊田市部活動ガイドラインを遵守できる者

報酬

一八〇〇円／時間（交通費込）